

はしがき

今年度の視察は、前々回の長野県に戻り、同県のほぼ中央に位置し、中信と呼ばれている諏訪・岡谷地域である。この地域は多種多様な観光資源に恵まれ、従来から生糸、精密機械などの産業が盛んなところである。しかし、観光においては、交通や消費者の価値観とともに旅行者が減少している傾向にある。

今回の研究プロジェクトのメンバーは5名（神頭、麻生、井出、廣田、藤井）であり、8月17日にJR下諏訪駅に近いホテルに集合して、その近くのクラシック音楽が流されている昔からの居酒屋でまちの様相などをお聞きした。翌日は少しハードであったが午前中は諏訪市役所を訪れ、その後諏訪大社上社を見学した。午後は諏訪大社下社に向かい、その近くで古い建物を活用したお店で、信州そばを頂き、その周辺のまちづくりについてNPOの方からお話を伺ってから、街並みを散策した。夕暮れ近くになってしまったが、平出精機の社長さんから岡谷市の歴史や企業のあり方などについてレクチャーを受けた。夜は諏訪市の職員の方々やNPOの方々と比較的山間にあるジビエ料理を堪能した。

翌日の18日は、午前中に岡谷市役所を訪れ、同市のまちづくりの計画をお聞きして、市役所の方の案内で、観光資源となっているお屋敷（旧林家）を見学した。お昼は名物のうなぎを食べてから、塩尻市にあるセイコー・エプソンの精密機器製造工場へ向かった。そこではたいへん興味ある機械式時計のお話をお聞きした。夕暮れには、それぞれ帰路に着いた。

今回の視察地域は、共通して観光旅行者が減少している傾向にある。これをくい止めるためにこれらの地域では、多くの努力のもとでまちづくりを試みている。ちなみに諏訪市では、諏訪湖の花火大会を長期的に実施しており、御柱祭などがアピールされている。諏訪市と岡谷市において近接しているところで諏訪神社下社に近い町の一角では、地味ではあるものの、独自の酒蔵、家具細工、皮製品小物店など見学できるようになっている。しかし、一般に地方都市に言えることであるが、夕方には店が閉じられ、閑散とした風景は否めない感が漂っている。

この場を借りて、長野県庁の観光課の方、町を案内してくれたNPOの方、諏訪市および岡谷市の市役所の方々をはじめ平出精機の社長さん、セイコー・エプソンの方々には、温かく迎えてくれたことにたいへん感謝する次第である。

2010年1月21日
愛知大学 神頭広好



諏訪大社上社の鳥居



諏訪大社下社通りの一風景



諏訪大社上社の御柱



まちづくりを担う下諏訪の木材工房



まちづくりを担う下諏訪の酒店



平出精機社長による岡谷市史の講義風景



諏訪大社下社



諏訪大社下社の御柱祭の広告



岡谷市の旧林家の家屋建造物



岡谷市の旧林家の家屋内の一部



上り諏訪湖 SA から諏訪湖を望む



下り諏訪湖 SA から諏訪湖を望む